

平成 18 年度大台ヶ原自然再生推進計画評価委員会
第 2 回ニホンジカ保護管理部会
会議議事要旨

日時：平成 19 年 2 月 2 日（金） 13:00~15:00

場所：環境省近畿地方環境事務所会議室

出席者

委員

高橋裕史	森林総合研究所関西支所生物多様性グループ
田村義彦	大台ヶ原・大峰の自然を守る会 会長
鳥居春己	奈良教育大学教育学部付属自然環境教育センター 助教授
村上興正	元京都大学 講師

関係機関

奈良県農林部森林保全課	主査	若山学
社団法人三重県獣友会	会長	中世古太輔

事務局

環境省 近畿地方環境事務所	統括自然保護企画官	田邊仁
	野生生物課長	高橋勝志
	野生生物課 自然保護官	西野雄一
環境総合テクノス	環境共生部自然環境グループリーダー	樋口高志
環境総合テクノス	環境共生部自然環境グループ	保延香代
財団法人自然環境研究センター	主席研究員	黒崎敏文
	主席研究員	永津雅人
	研究員	荒木良太

【整合性について】

- A1、A2 の区分けを廃止する理由に、「自然再生計画との整合性」という理由はそぐわない。

【オープンランドの評価について】

- 古文書では、牛石ヶ原を「大禿」、正木ヶ原を「青畠を敷くが如し」という記述もあり、オープンランドが戦後突然現れただけではない。昔から弥山の縞枯れなどがあったり、象牙のような枯れた巨木があったり変化に富んでいた。学際的視点に立った検証が必要である。

【周辺部における現状の記述方法について】

- 農林業被害という項目が冒頭に来るのは、問題がある。記述する順番としては、生息動向、捕獲状況を述べた後に農林業被害があるべきである。

【文言修正等について】

- 背景の部分で出てくる第一期計画については計画期間を入れる。
- P.3 の計画策定の目的部分の「上記を踏まえたうえで」を最後段落に回す
- 「管理地区」という言葉にはせず、別の言葉に代える。
- P.5 の文章部分の「また、植生の重要度が高く～」のところに表 4-1 の内容をわかりやすく噛み砕き追記する。
- 「生物相」については要点だけの表記だけに変更し、自然再生推進計画を参照するようにする。シカに重点をおくように変更する。
- P.11 の遺伝に関する記述の「変異に富んでいる」の内容を明確に表現する。また、周辺部の状況について可能であれば記載する。
- P.15 の「性別の最高齢」という表現は繰り返しになるので、「性別」を削除する。
- 調査結果等、全般について、調査の年度及び表、試料数、方法等に基礎的な事項を載せる。春夏秋冬の区別の定義を記述する。
- 個体試料分析結果についての評価が可能ならば行う。
- 年齢と妊娠の判断の時期が表記されていないこともあり、繁殖状況の読み取り方が難しいのでわかりやすい表現にする。
- 捕獲効率の記述を入れておいたほうが、現状が捕獲に限界が来ていることがわかるのでよい。アルパインキャップチャーチと麻酔銃と分けて、状況とデータを記述する。
- 「保全対策」に『植生』というのを加え、「植生保全対策」とする。

- 周辺部についての状況について、具体的な場所などがわからないのでそのあたりについてもわかるように表現を工夫する。
- P. 27 「(2) 構造」ではネット素材についてわかるようにする。
- 「大腿骨・腎臓」の「・」を「、」とする。
- P. 21、P. 22 の「(1) 周辺部における現状」では、市町村合併に対応した記載とする。
- 農業被害と林業被害の性質の違があるので、表記は工夫して記載する。